

令和6年度第1回沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会会議録
(概要)

- 1 期日
令和6年5月17日(金)
- 2 場所
テラス沼田 第2委員会室
- 3 出席者等
委員13名(2名欠席)、事務局6名
- 4 開会(午前10時00分)
委員15名の半数以上の出席により、審議会が成立することを確認
- 5 委嘱状交付
教育長から委員へ委嘱状を交付
- 6 教育長挨拶
- 7 自己紹介
- 8 会長及び副会長選出
委員の互選により大竹孝夫委員を会長に、小林昭紀委員を副会長に選出。
- 9 議事

発言者	審議内容
事務局	当審議会は、沼田市教育委員会の附属機関として、条例に基づき設置されており、小中学校の適正規模や適正配置に関する ことについて、教育委員会からの諮問に応じ、調査審議を行っ ていただく組織です。 (1) 児童生徒数の減少(2) 単学級の増加(3) 複式学級 の更なる増加(4) 学校施設の老朽化の状況などの課題を踏ま え、次の世代を担う子供たちにとって、より良い教育環境を整 え、充実した学校教育の実現に資するため、小中学校施設の適 正規模及び適正配置の基本的な考え方について調査及び審議す るため開かれることとなったものです。 また、5月2日、多那小中学校の新旧 PTA 会長の連名で、教 育長宛てに要望書が提出されましたので、概要を報告します。 要望の理由としては、小学校では「学級の在籍児童が1人しか いないクラスがある。」、「令和8年度には、新入学児童がい ない状況が見込まれる。」、「少人数学級で友人関係がこじれると、

	居場所を失い孤立する傾向が強い。」「少人数学級で集団における社会性を育む上で課題が見られる。」など、中学校では、これらに加え、「高校に進学した際に、児童数の急激な増加から適応するのに時間がかかる。又は、不適応を起こしたりすることが懸念される。」「部活動が原則としてソフトテニス部に入部となり、選択の余地がない。」「希望する部活動がないなどの理由で、多那中学校以外へ入学するケースがある。」などです。 要望事項等は、「沼田市の将来を長期的に鑑みて、統合先の学校を検討してほしい。」など、その他に、通学方法、教職員、不安を抱えている児童生徒、保護者への配慮等について記載がありました。
事務局	「1 諮問の背景（将来予測）について」 諮問の理由は主に4点の課題から、沼田市小中学校の適正規模及び適正配置について、皆さんからの意見を踏まえ、沼田市の特色を生かした、学校教育の新たな形として、沼田市教育委員会として方針を策定したいと考えています。 （1）児童生徒数の減少について、平成21年度からみて令和11年度は半数以上が減少する見込みです。（数値では、4,704人が2,243人になる見込み） ※令和11年度の数値は令和4年までの出生数から推計 また、令和4年の出生数は203人となっており、平成17年比で45%の減であります。 ※出生数については、年単位での数値となります。 （2）単学級の増加について説明します。 単学級とは1つの学年で1学級のみをいい、クラス替えができない、クラスの枠を超えた多様な学習形態がとりにくいなどのデメリットがあると言われています。 （3）複式学級のさらなる増加について説明します。 複式学級とは、2つの学年で編成される学級のことで、小学校では2学年で16人、1年生を含む場合は8人以下、中学校では8人以下の場合に移行されるものとなっています。 沼田市では資料にある小中学校で複式学級が存在していますが、全ての学年で複式学級となっているわけではなく、一部の学年で存在している状況です。 児童生徒数の減少による学習環境に与える影響例として、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくいなどが考えられています。 （4）校舎や体育館などの学校施設の老朽化について、ソフト面の問題だけでなくハード面の問題、施設の老朽化も深刻化しています。

	本市の小中学校の校舎、体育館武道場において、大規模な改修が必要だと言われる築30年以上の建物が全体の77%を占めています。 以上が諮問の背景（将来予測）の説明となります。よろしくお願いします。
会 長	児童生徒数の減少という観点、それに伴って単学級や複式学級が増えてきているということの説明でした。 次に適正規模についてご説明をお願いいたします。
事務局	適正規模についてご説明します。 小中学校の適正規模とは、主に学級数と児童生徒数のことになります。国の基準は学校教育法施行規則により、小学校は全体で12学級以上18学級以下を標準とし、中学校も小学校に準じているため同じ数字が示されています。 1学級当たりの児童生徒数について、群馬県は、国の基準と違う基準を設けており、沼田市も県に準じています。 学校再編に関するアンケート結果（抜粋）の説明となります。 こちらのアンケートの対象は、小中学生の保護者、未就学児の保護者、小学校5・6年及び中学校1・2年の児童生徒を対象に令和5年12月に実施したものです。 お配りした資料では、保護者のアンケート結果を抜粋しております。
事務局	適正規模に係るアンケートの補足説明です。 2回目のアンケート調査では、小中学生及び未就学児の保護者のほか、小学5・6年生と中学1・2年生にも「これからの学校に関するアンケート」と題して調査を行いました。 先ほど説明したアンケート結果の説明は、保護者の回答をまとめたもので、同様の質問に対して子供たちはどう考えて答えたのか、少し掘り下げて説明をします。 （分析の前提として、子供たちは、自分自身がいる学年の望ましい規模について回答している。）
会 長	子供たちの方が現状で良いと考えている割合が多く、保護者の方が危機感、課題を持っていることを示しているアンケート結果でしょうか。 次に適正配置について説明をお願いいたします。
事務局	適正配置とは、通学距離、通学条件になります。 通学距離については、国が示している基準として学校施設の整備に係る補助金の基準がありますが、最近ではスクールバスの活用などによりこの範囲に収まらない場合も補助金の対象に

	なる場合があります。 沼田市でのスクールバスの利用状況は、資料のとおりです。 アンケート結果からは、通学方法に関する部分は、資料のとおりです。
事務局	補足説明になります。 通学距離に対する保護者のアンケート結果は、資料のとおりです。 子供たちは通学距離を割と苦にしていなくても取れますが、小学校低学年と高学年では体力差もあります。また、具合が悪くて子供を学校へ迎えに行く場合もあるので、学校までの通学距離や通学時間は、大きな関心事のひとつと認識しています。
会 長	以上事務局より説明がありましたが、委員の皆様は順番にご意見を伺いたいと思います。
委 員	アンケートの結果から数字化され、より深刻な印象がありました。 また、各学校区によって、まだ温度差がある。 2学級あると進級したときに誰と（クラスが）一緒だったとか、先生が変わったりなどあり、2学級もいいと思うが、現状では、ちょっと厳しい印象です。 また、子どもは、環境の変化に弱いので、統合になると学校区によっていろいろ違うことがあるので、不安に思うこともあると思います。 いずれさらに少なくなるという現状なので、その辺を踏まえて考えなければいけないと思いました。
会 長	アンケート結果で、子どもと保護者との違いというのがありましたけれども、変化を嫌うというか、現状で十分だと思う子もいるのかもしれませんが。
委 員	現在は全学年 2 クラスずつ学級がありますが、今後どんどん減っていくことといった問題が切実にあると思います。 人数が多ければ多いほど、刺激もあるし、出会いもあるというところで、少ない中でも、活発に活動できるには、一貫校もいいのかと少し思いました。
会 長	5年後の状況を見ると、さらに学級数が減少する見込みがある。そういう中で、子どもへ与える影響という面にも触れていただいたわけですが、やはり集団の中で切磋琢磨することは大事ですよね。集団の中で切磋琢磨できるからいいということもありますが、長い時間を過ごす学校という環境の中で、切磋琢磨できないというのは、残念かなと感じます。

委 員	児童数の少ない学校では、保護者の中でも、統合するならどこの学校だよねみたいな話が、ちらほら上がってきているのも事実です。 少ない人数で、より先生と密に接して、そういうメリットはあるとは思っていますが、その一方で、高校に進学したときに、集団についていけないというデメリットもあるのかと思います。 小学生自身は、やはり現状維持、あまり変化を望まない意識が強いと思いますが、中には「人数が少ない学校より、人数の多い学校に行きたい」と言う子供もいます。現状維持を希望する子の精神的なフォローもあると思うので、簡単に統合というわけにはいかないと改めて思っています。 通学路とか、今回いろいろデータを見させていただいて、地域性、地域との関わり合いというところが非常に大事になってくるのかなと感じました。
会 長	学校の中では、ちらほらですが、統合が話題になったりすることですね。
委 員	そうですね。1学年の人数が少なくなって、一桁台というのが目に見えてきて、学校運営としてどうすればいいのか、地域性もあり、非常に難しいと思います。 運動会や地域の行事に関しても、小学校から中学校区が同一の地域でない場合もあるので、小学校、中学校で児童を集められないという問題点も地域の方から上がってきている現状があります。
会 長	引き続き次の方お願いします。
委 員	いずれ統廃合しなければ、学校として運営していくのが難しくなると感じました。 子どもたちの現状維持を望む声というのは、「未来は、こうなるよ。こんなに人数が減っちゃうよ」というデータを見ずに、聞かれているので、「今がいいよね」という答えになると感じました。 いずれにせよ、統廃合した後に、もう一回統廃合しなきゃいけないという結果になるのが一番大変だと思うので、よく検討するべきと感じました。
会 長	次の方お願いします。
委 員	学校がなくなることが、その地域から何もなくなっちゃうっていう考え方もあるでしょうし、寂しく感じる方もいると思います。 小学校は、子供も少なくとも、みんなが仲良く遊び、勉強も一緒にしてますが、中学校で思春期が始まり、1つトラブルが

	起きるとなかなか解決できないような現状もあります。小規模校は、メリットとデメリットがあると思いますが、保護者の立場からすると、大規模な学校に統合したからと解決されるかどうかは別ですが、高校に上がった時に、対応できるかが一番の心配です。 部活動に関しても、固定されていることで、市外の学校に転校する子供もいます。 そのようなことを含めて市全体で適正配置を考えていただければと思います。
会 長	次の方をお願いします。
委 員	施設の老朽化を、新しい仕掛けの建物や設備が作れる、そういう機会と捉えてもいいのかなと思いました。 大きな集団になじめるのかという心配の問題も出ていますが、自分で振り返ると、新しい環境になるから、人数が増えるからっていうところを心配するよりは、もっと新しいチャンスが広がるのか、新しい出会いができるのか、前向きに捉えていけないのかと少し思いました。
会 長	引き続き、次の方お願いいたします。
委 員	自分たちが過ごしてきた年代の学校の人数や地域ということが体に染み付いていますから、今の子ども、今の親御さんがどうだって言っても、なかなか我々は肌身で分からないのが現状だと思います。 ただし、現実的に子どもさんたちが少なくなっ、統廃合はある程度仕方ないところで、体験学習や親御さんたちの交流によって、いろんな考えの人と交流する機会をつくっていただければ。所々でいろいろな歴史があって、人の考え方も色々あるので、その中で生きている力をどう育んでいくかというのは、少人数でも大人数でも同じだと思いますので、そこをうまく教育に反映させていただければなと思います。
会 長	では、次の方をお願いします。
委 員	質問ですが、昨年度末にこのアンケートを基に、学校ごとの学校運営協議会におきまして、意見を集約してほしいということがありました。そのご意見の反映については次回でしょうか。
事務局	各学校運営協議会又は学校協議会での話し合いの内容をまとめたものは、特に用意していません。 事務局の検討資料として生かしていく予定ですが、必要であれば、次回、お示しさせていただきたいと思います。

委 員	前任校の協議会は、組織の構成員が PTA と地域の方、学校運営ボランティアをされていた方々、駐在所の方ということで多岐にわたる方々ですが、地域として、色々なご意見がたくさん出まして、それをまとめた経緯がありましたので、特徴的なものがあればこちらで生かせるかと思い、質問させていただきました。 かつて勤務していた際に、3校の小学校を統合して、新たな小学校を立ち上げた経緯があります。閉校から開校、新しい学校の運営まで長く、勤めさせていただきました。 その時に、子どもたちはすぐに友達ができて楽しく過ごすことができ、新しい環境にどんどん適応していくと感じました。 小さい学校の子は少人数で、大きな学校の子に萎縮するんじゃないかと心配されていましたが、全くそんなことはなく、意識を育てることは大事だと思いました。 現在の小学校では複式学級を今年度は3年生と4年生で、昨年度は2年生と3年生となりました。来年度はさらに、もう1学年増やす予定ですので、複式学級は更に多くなりますが、その中でも地域の方の思いというのがすごく深くて、小学校に対する愛情、愛着、郷土愛というのを子どもたちに伝えたいということがすごくあるなど感じており、小規模校の良さを生かす工夫が大事かと思います。 ですが、あまりにも小規模な学校になれば、子どもが保障されるべき学習環境が保たれないこともありますし、子どもの育つべき社会性が育たないこともあるかと考えています。学校としてはメリットとデメリットは表裏一体と考えていますので、弱みを強みに生かせるように、適正配置と並行して、学校という現場で取り組んでいくんだろうと考えています。
会 長	それでは、次の方お願いいたします。
委 員	統合が実現に向けて進んでいくと思いました。 通学距離についてですが、低学年は特に、急な坂があり、熊を心配するような通学路を、ランドセルや体育着、上履きを持って行く現状もあります。予算の関係もあると思いますが、スクールバスがあればいいなと考えました。 やはり子供の安全っていうことを考えると、熊や蛇が出る道は、親として、心配な面があります。
会 長	ありがとうございます。
委 員	子供の安全ということをよく考えていただければありがたいと思います。
委 員	皆様のご意見と重ならないところで、2点お話ししたいと思います。

	一つは、より良い学習環境というテーマですが、学習の基盤になる人間関係にとって何が適切と考えると、人数で言えば、多すぎず、少なすぎずと言いますか、少ないから良い、多いから良いと一律に言えないと思います。 逃げ場がある環境も必要ですが、多ければ多いでどうかというと、また問題が出てくると思います。学習環境の基盤となる人間関係を、どういう環境をこちらが用意できるのか、どこが一番適切なのかという視点がその一つです。 もう一つは、小中を一律には考えられないと思いました。中学校は、教室での学習環境だけでなく、部活も大きな割合を占めていると思います。 部活の選択肢が一つしかないと話がありましたが、現在、地域の方のコーチも入り、いくつかの学校を寄せている部活もあると思います。そういう場所を、もう少し広げたり、増やしていくとか、地域の力を、生かしながら、中学校で比較的取り掛かりやすく、広げやすいかなと思いました。 高校に入ることまで考えると、小から中へ、高と少しずつ広がってくる方がいいかなと思います。小学校は小学校の少ない良さみたいなのが、とても生かせるところが大きいと思うので、中学校へ段階を踏んで行くことが大事かなと思います。 中学校から適正な規模を考えていく方法も一つだと思いました。
会 長	各学校の温度差もありますし、地域性も違いますし、子供の発達段階に応じて対応していくことが必要ということですね。 では、次の方お願いします。
委 員	地域の理解を求める、子どもたちの理解を深めていって、段階的に進める、長い時間をかけて保護者や地域の方々へ説明して、根気よくやっていくことが、一番大事なのかなと思います。 また、進めるにあたって、部活の地域移行の話が出てきたんですけど、そういう受け皿を用意しておいて段階的に進めるという方法が一番いいのかなと思います。 先ほど意見が出ましたが、やはり中学あたりから、少しずつ進めていくこともいいかと。ここの学校とここの学校が人数が少ないから、すぐ統合するということではなくて、長期的な計画を立てて、地域の理解や、子どもたちの理解を得ながら、受け皿を作りながら、進めていくことが大事かなと思います。 スクールバスは、利用できる通学距離数が決まってるので、スクールバスでは送れないということを保護者には、伝えました。スクールバスの関係は、山間部では、今も問題があると思うんですが、統合した時に、スクールバスを円滑に運営していくことは、すごく大事な点だと思います。 最後に、ダイバーシティじゃないですけども、多様性の時代となってきた、子どもたちが7人や8人で道德の授業をした時

	に、いろんな考え方があるんだなということを知る場面、学習以外の切磋琢磨の場面っていうのが、今、非常に少ないと思います。SNSで自分の意見は発信するけれども、それを受け取って、「ああ、こういう考えもあるんだな」、「それに対してどう対処していけばいいのか」という世間の渡り方ということを経験する必要があると思います。 小さい時に、いろんな意見に触れさせて対処の仕方を、私たちは、子どもたちに伝えていかなければいけないと思います。その機会が、やはり少子化だと、とても難しいかと思っています。 今ですと、学校でもZoomを繋げて、合同で授業をできます。先進的な機器もあると思うので、それをうまく活用しながら、少人数がどうというより、子供たちの多様性を伸ばしていくような教育環境をつくっていく必要があるのかなと考えています。
会 長	最後に副会長からもご意見をお願いいたします。
副会長	今は、ネット社会ですので、人と人とのふれあいというのが非常に少なくなっています。人間関係を構築できるかということでは、適正規模に繋がってきます。その中で、適正規模にした場合に出てくるのは、通学の問題とか、地元愛の問題だと思います。例えば、沼田、白沢、利根が合併して15年以上経ちますが、まだ「白沢」、「利根」という地元の意識というものがあります。学校を統廃合した場合には、ある程度そういうものが、大人はありますけれども、子供はほとんどないと思います。 私も小学生、中学生、高校生を集めて、いろいろ事業をやっておりますが、どこの学校という意識は、本当にありません。宿泊でも、本当に仲良く、全然違和感はありませんし、子どもの適応性というのは、本当に素晴らしいと思います。 できれば、統廃合をしっかりと早めに行っていただきたい。ある程度時間をかけると、問題が出るとしますので、早めに方針を決めて、そして適正規模の学校を作っていただきたい。 先生方は、教科ごとに、しっかり対応してもらえるとということになると、今、教員の時間外勤務の問題もありますので、解消に向かうのではないかと考えております。ですから、まず子どもはどうしたらいいのかということを経験に、早い段階で話ができるようになればいいかなと思います。
会 長	ありがとうございました。 議題その他ということで事務局お願いします。
事務局	今回の第2回審議会については、施設の老朽化の他に、特色のある他の市町村の取り組みを紹介させていただきながら、沼田市らしい取り組みについてご意見をいただければと思っています。 今回は、6月19日に同会場で開催させていただきます。

|-----|